

平成 21 年度天皇誕生日レセプション 東総領事挨拶

本日は 天皇誕生日レセプションにご出席いただき、心より御礼申し上げます。

天皇陛下は今年23日に76 才の誕生日をお迎えになられます。また本年 1 月 7 日をもってご在位満 20 年を迎えられました。さらに、天皇皇后両陛下は、本年4月 10 日にご成婚 50 年を迎えられました。本日はこれらの意義をこめて皆様とともに天皇誕生日をお祝いできることを大変うれしく存じます。

さて 本年も日伊の二国間関係が多くの分野で前進したことに満足の意を表したく存じます。

特に 本年は 伊が G8 サミットの議長国であったこともあり、麻生総理(当時)の他 経済関係閣僚が伊を訪問しました。また、日本での「イタリアの秋」開催の際には、ナポリターノ大統領が訪日され、天皇陛下と会見されたほか特に、ミラノスカラ座の東京公演に両陛下がナポリターノ大統領と鑑賞されました。また この際ナポリターノ大統領が、日本での政権交代後鳩山首相が始めて合われた外国要人となり、国際的問題に加えて、二国間関係の強化についても話し合われました。また、「日伊ビジネスグループ」が東京で開催され日伊間の経済関係の強化について話会われました。

また、ミラノにおいては、本年は「ミラノにおける日本文化年 2009」として、日本での「イタリアの秋」に呼応するかたちで年間をとおしてして日本文化行事が実施され、

2月には「侍展」4月には「モネと日本展」9月「マダムバタフライ、記憶のファイル展」が実施され、また、12月 7 日から日本 から国宝級日本美術を持ち込んでの「桃山江戸時代の日本の重要美術展名品展」が開催されます。これはミラノにおける本年の最重要展覧会となります。

また、ここ数年来毎年9月に行われている「ミラノトリノ国際音楽祭」「MITO」や「ミラノミュージカ」のテーマ国が 2009 年は「日本」とされ、雅楽、能、和太鼓、日本の現代音楽紹介の他大規模な日本文化行事が実施されました。

今後ミラノ市との関係では「2015年ミラノ万博」の成功に向けて日本との協力関係を強化していきたいと考えています。

ここで若干唐突ではありますが、私もミラノ着任後三年半となり、明年1月には、一旦帰国することとなりました。在任中、お世話になりました ミラノ市 ロンバルディア州はじめ 北伊の地方当局、警察、総領事団、各地の産業連盟、商工会議所他経済団体、各種文化団体の皆様、また、本日本お集まりの皆様にご心より御礼申し上げます。

この三年半、一時期好景気となり日本企業の進出も見られましたが、国際金融危機もあり撤退した企業もありました。他方、ミラノサローネや MICAM への日本のはじめての出展、

国際観光博覧会への日本の数年ぶりの出展等日本からの積極姿勢が示されたほか、伊国内で対日関心は着実に高まっており、確実に「日本ブーム」と言える状況が見られ「日本食ブーム」をはじめ、茶道、華道、能、浮世絵、盆栽等日本の伝統文化や、「源氏物語」をはじめとする日本文学に対する関心の高まりが見られたほか、アニメ等ポップカルチャーに対する若者の関心の高さには驚かされることもしばしばでした。さらに、柔道、空手、剣道、(相撲)等の武道も日本よりも盛ん

とも言える状況であり、特に、武道等を実践している人たちは、単にスポーツとしての武道を愛するというよりは、その「道」の精神を深く理解し、自らの「生き方」の指標とし、また、単に日本文化を表面的に理解すると言うよりは、自らの「心」や「魂」とする姿勢が見られ、ある意味で、日本人以上に日本文化の背景にある「精神性」を体現されている姿に感心させられることも一度ならずありました。

他方、イタリア人の日本や日本文化に対する好意、愛着は決して一方通行ではありません。ミラノをはじめ北伊には六千人の在留邦人が居住しており、二百五十社の邦人企業があり、邦人数は増加傾向にあります。在留邦人は、ビジネスマンのみならず 画家、デザイナー等のアーティストやオペラ歌手等音楽家等が多数滞在し、日伊間の経済文化関係の交流に創造的に寄与されています。

ここで改めて三年半にわたる在任中、皆様方から頂きました御支援、御協力、ご厚情に御礼申し上げますと共に今後も引き続き総領事館に対する皆様のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

良いクリスマス、またよき新年をお迎え下さい。